

「こおりやまの米」通信

平成24年7月19日



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

「平坦版」

編集:郡山市

JA 郡山市 (.921-0724)

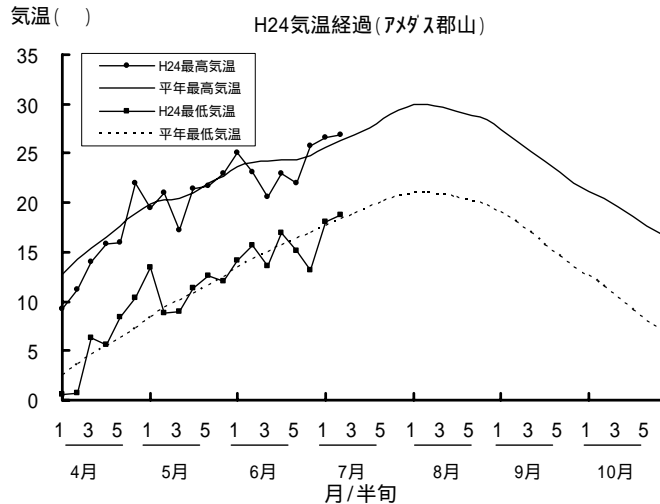
NOSAI 郡山田村 (.933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (.935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 .924-3761)

Vol.7 穂肥の量と時期 次号は9月上旬(刈取適期)

*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります



7月17日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉令
			株あたり	mあたり	
コシヒカリ (田村)	本年	68.0	30.8	628	108
	平年比(%)・差	95	120	123	+03
ひとめぼれ (安積)	本年	60.6	39.8	605	105
	平年比(%)・差	97	144	134	+06
天のつぶ (喜久田)	本年	61.0	30.1	562	9.4
	前年比(%)・差	81	108	99	+02

注)湖沼地区を除く

1 生育概況 草丈は短く、茎数が多い

気温は7月上旬より最高気温が平年より高く、最低気温は平年並となりました。水稻の生育の遅れは、平年並に回復しつつあります。

7月17日時点では草丈は平年より短く、茎数が多く、葉令は平年並となりました。幼穂の状況から「ひとめぼれ」の出穂は、8月5日頃からと見込まれます。

2 天気予報

東北地方 1か月予報 (平成24年7月13日 仙台管区气象台 発表)

前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

3 作業のめやす



4 水管理

(1) 中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう。
(低温の恐れがある場合は深水にしましょう)

(2) 出穂期以降に高温が続く場合は、できるだけ掛け流しとし水田の水温・地温を下げ根の活力を維持しましょう。

水管理期間中の水田水温と水田地温

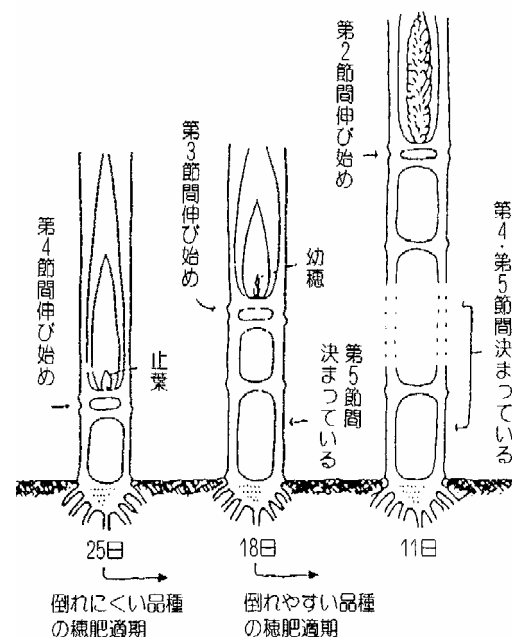
区名	最高()		最低()		平均()	
	水温	地温	水温	地温	水温	地温
掛け流し区	25.4	24.9	21.4	21.6	23.1	23.1
常時湛水区	28.4	26.2	23.4	24.1	25.4	25.1
間断湛水区	30.4	29.0	22.3	23.3	25.5	25.8

(2000年 福島農試)

5 穂肥

- (1) 現時点での出穂は「平年並～やや遅い」の予想ですが、今後の天候により変化しますので、幼穂長等を確認し、適期に追肥しましょう。
- (2) コシヒカリは、減数分裂期（出穂 15～10 日前）にチッソ成分 2kg/10a を基本とします。草丈が長く葉色の濃いほ場は量を減らすか、時期を少し遅らせましょう。穂肥に有機質入り肥料を予定している場合は、施用時期に注意しましょう。
- (3) 出穂 5 日前以降の実肥は、玄米のタンパク質が高まり、食味が低下するので行わないでください。

* 基肥一発の場合は、原則として穂肥は行いません。



追肥のチッソ成分 2 kg の目安

(コシヒカリ、10 a あたり)

肥料銘柄	N-P-K	施用時期 (出穂前)	施用量
NKC 6号	17- 0-17	15～10日	1.2 kg
IB 4号	15- 4-15	15～10日	1.3 kg
こおりやま 2号 (有機入り)	10- 2-10	18～13日	2.0 kg

幼穂長による出穂前日数の判定

幼穂長	出穂前日数	備考
1.5mm	24日	幼穂形成期
2.0mm	20日	
40.0mm	15日	減数分裂期

< 参考：倒伏懸念がある場合の穂肥対応目安 >

品種名	倒伏懸念がある場合の対応		施肥基準	
	穂肥時期の目安 (出穂前日数)	穂肥量の目安 (窒素成分)	標準的穂肥適期 (出穂前日数)	穂肥量 (窒素成分)
コシヒカリ	7～6日前	1 kg / 10 a	15日前	2 kg / 10 a
ひとめぼれ	15～10日前	1.5 kg / 10 a	25日前	

6 病虫害防除

(1) いもち病防除

コラトップ粒剤5などで予防する場合は、今すぐに散布しましょう。

田植え時に長期持続型殺虫殺菌剤を箱施用した場合でも、効果は徐々に落ちてきます。穂いもちには別に防除を行う必要があります。

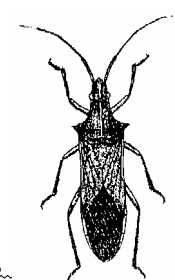
(2) 稲こうじ病は毎年同じ田で連続して発生します。モンガリット粒剤(出穂 21～14 日前)やZボルドー粉剤 DL(出穂 10 日前まで)等で防除しましょう。

(3) 斑点米カメムシ類

例年発生が多い地域では、乳熟期と糊熟期に殺虫剤で防除しましょう。

ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡（所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661）を密にし、事故のないようにしましょう。

農薬は決められたとおり使用しましょう。他の農作物への飛散に注意しましょう。



ホソハリカメムシ

この資料は、平成24年7月18日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。